

# 第1章 市民の健康等の状況

## 1 市の概要

### (1) 人口・世帯

#### ① 人口の推移

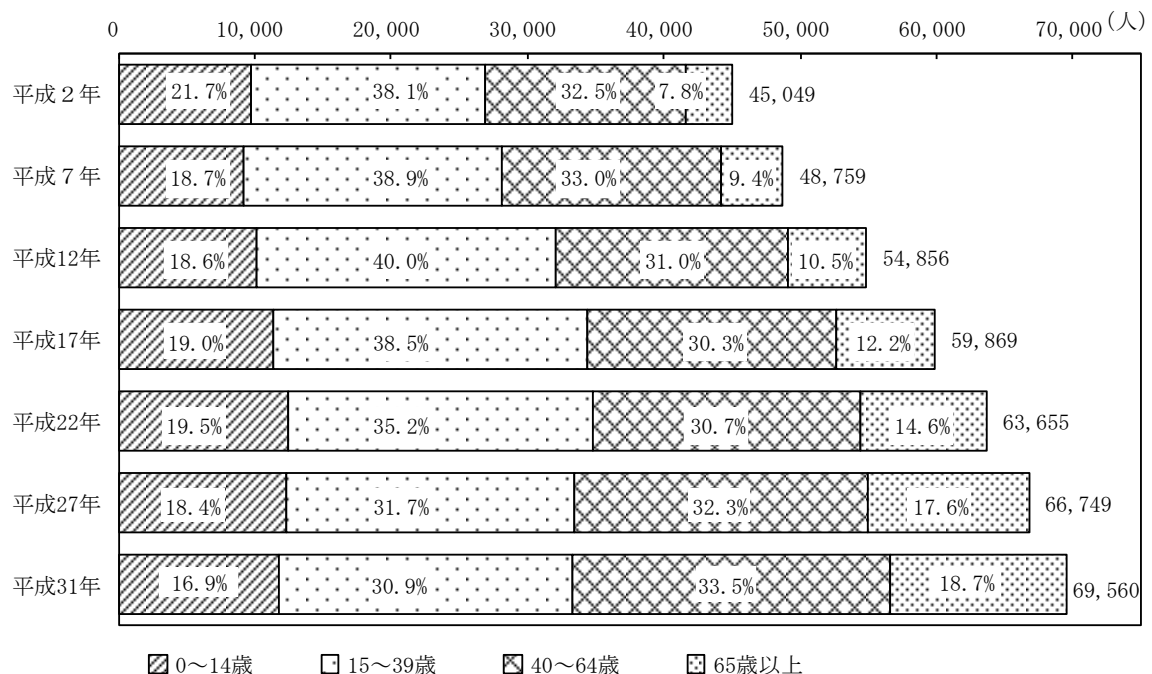
本市の総人口は、平成31年4月1日現在69,560人となっており、平成2年の45,049人から29年間で24,511人、54.4%増加しています。

年齢階層別に割合をみると、0～14歳人口は、平成17年、平成22年は上昇していましたが、平成31年は低下し16.9%となっています。しかし、これは全国の12.1%、滋賀県の14.0%に比べて非常に高い率と言えます。

15～39歳人口の割合は平成17年以降低下し、平成31年は30.9%となっています。40～64歳人口の割合は30～33%台で推移しています。

これらに対し、65歳以上人口の割合は年々上昇を続け、平成31年は18.7%となっています。ただし、全国（28.3%）、滋賀県（25.9%）に比べると非常に低い率といえます。

図表1-1 人口の推移



(注) 総人口は年齢不詳を含めた数値。

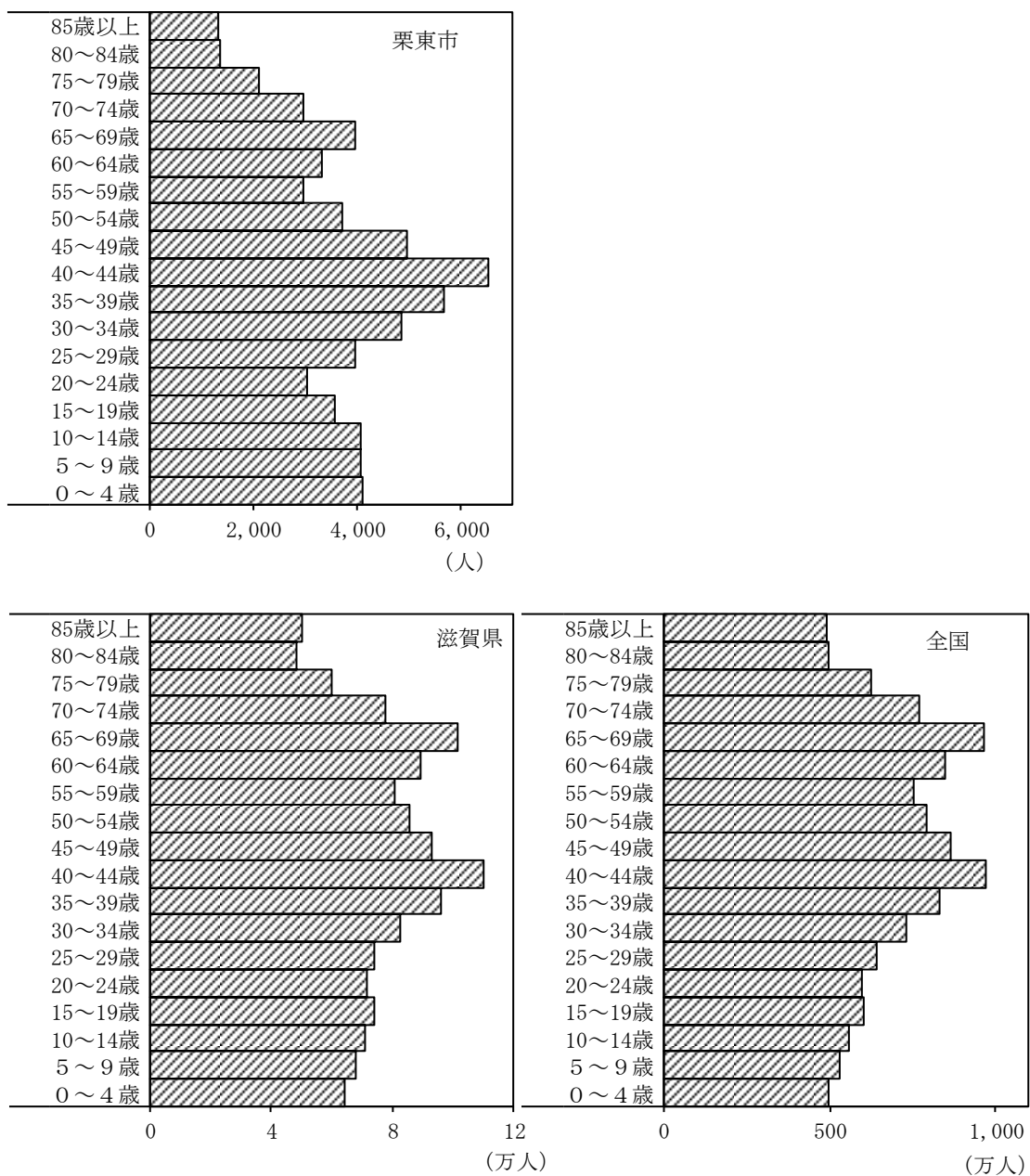
資料：平成27年までは「国勢調査」、平成31年は4月1日現在の住民基本台帳人口

## ② 人口ピラミッド

図表1-2は、平成27年の全国、滋賀県、当市の人口ピラミッドです。それらを比較すると、いずれも第1次ベビーブーム世代（団塊世代）が含まれる65～69歳の層と第2次ベビーブーム世代（団塊ジュニア世代）が含まれる40～44歳の層が多くなっています。

本市は、全国、滋賀県に比べて、団塊ジュニア世代が非常に多くなっています。また、本市は団塊ジュニア世代やその子どもにあたる世代が多くひょうたん型といえますが、全国、滋賀県は高齢者人口が増加し年少人口が減少する、つまり上部が広く裾がすぼまる壺型になってきています。

図表1-2 ピラミッド

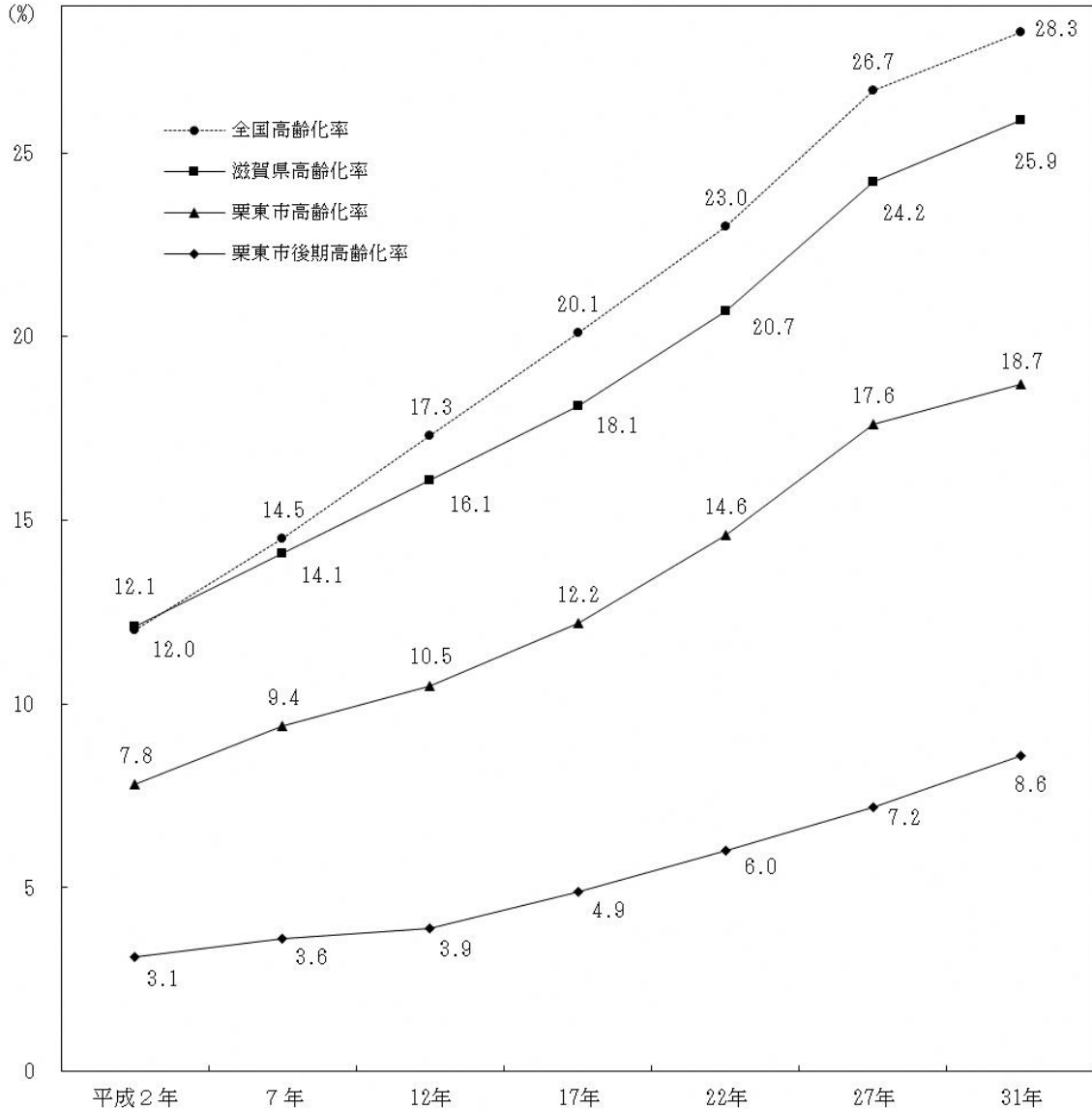


資料：「国勢調査」

## ③ 高齢化率の推移

本市の高齢化率（総人口に占める65歳以上人口の割合）は、全国および滋賀県を下回る値で推移しています。高齢化率の上昇は、全国および滋賀県よりもやや緩やかではあるものの、今後も上昇を続けると予測されます。また、後期高齢化率（総人口に占める75歳以上人口の割合）は、平成31年4月現在8.6%となっています。

図表1-3 高齢化率の推移



資料：平成27年までは「国勢調査」。平成31年は4月1日現在の住民基本台帳人口、全国は内閣府統計局、滋賀県は統計課推計。

#### ④ 世帯の家族類型

平成27年の国勢調査によると、本市の一般世帯数は24,563世帯です。うち68.3%が核家族世帯となっており、全国より12.4ポイント、滋賀県より9.4ポイント高くなっています。一方、単独世帯は全国、滋賀県より低くなっています。

18歳未満の子どものいる世帯についてみると、核家族世帯が89.2%を占めています。

図表 1-4 一般世帯の家族類型

区 分	総 数	親族のみの世帯					核家族以 外の世帯	非親族を 含む世帯	単独世帯
		核家族世帯			夫婦のみ	親と子			
		核家族世帯	夫婦のみ	親と子					
全 国 (%)	100.0	64.5	55.9	20.1	35.8	8.6	0.9	34.6	
滋賀県 (%)	100.0	70.8	58.9	19.8	39.1	11.9	0.7	28.5	
栗 東 市	世帯数(世帯)	24,563	18,771	16,768	5,046	11,722	2,003	299	5,493
	割 合 (%)	100.0	76.4	68.3	20.5	47.7	8.2	1.2	22.4
	18歳未満世帯員 のいる世帯 (%)	100.0	99.5	89.2	-	89.2	10.3	0.3	0.2

(注) 不詳を除く。

資料：「平成27年国勢調査」

## (2) 人口動態

### ① 出生数・出生率の推移

本市における出生数は、平成21年以降概ね900人台で推移していましたが、平成28年から一気に100人減少して850人、翌平成29年もほぼ同数となっています(図表 1-5)。

平成29年の出生率(人口1,000対)は12.5となっており、本市は滋賀県より4.2ポイント、全国より4.9ポイント高くなっています(図表 1-6)。

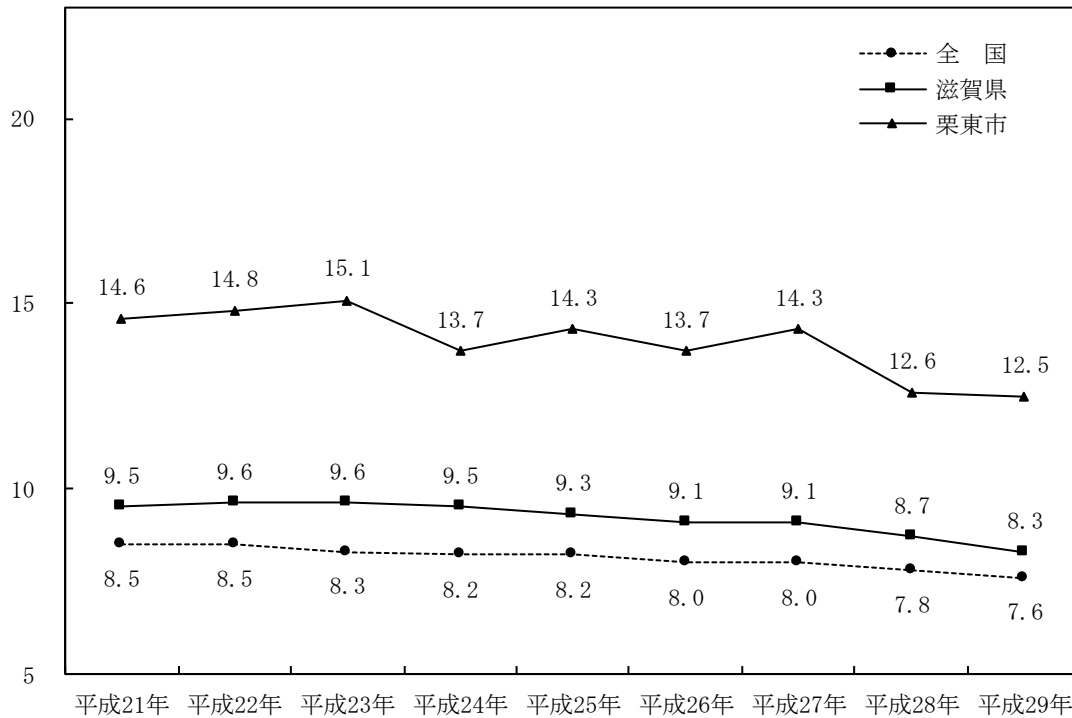
図表 1-5 出生数の推移

単位：人

区 分	平成 21年	平成 22年	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年
出生数	928	938	970	892	939	908	950	850	852

資料：人口動態統計

図表1-6 出生率の推移（人口1,000対）



資料：全国、滋賀県は人口動態統計、栗東市は南部健康福祉事務所事業年報

② 合計特殊出生率の推移

本市における平成29年の合計特殊出生率は1.98となっており、全国はもちろん滋賀県を大きく上回っています（図表1-7）。

図表1-7 合計特殊出生率

区分	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
栗東市	1.88	1.98	2.07	1.91	2.09	2.01	2.16	1.93	1.98
滋賀県	1.44	1.54	1.51	1.53	1.53	1.53	1.61	1.56	1.54
全国	1.37	1.39	1.39	1.41	1.43	1.42	1.45	1.44	1.43

（注）合計特殊出生率は、15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したものであり、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとした時の子ども数を表したものです。この合計特殊出生率が2.07を下回ると将来人口が減少するとされています。

資料：全国、滋賀県は人口動態統計、栗東市は南部健康福祉事務所事業年報

## 2 市民の健康等の状況

### (1) 特定健康診査・特定保健指導

平成20年度から「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づき、40～74歳の国民健康保険加入者を対象として、糖尿病・高血圧症・脂質異常症等の生活習慣病の予防のため、メタボリックシンドロームに着目した特定健康診査・特定保健指導を実施しています。

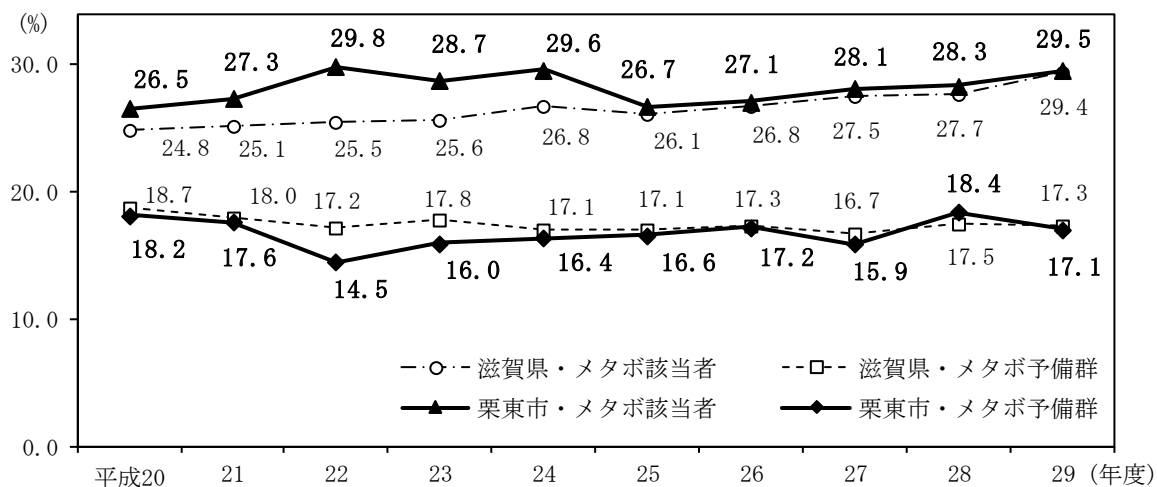
特定健康診査の受診率は、平成29年度は全体では37.3%となっており、全国より0.1ポイント高く、滋賀県より1.5ポイント低くなっています（図表1-10）。

平成29年度の本市のメタボリックシンドローム該当者は、全体では19.0%と高く、全国、滋賀県を上回っています（図表1-10）。

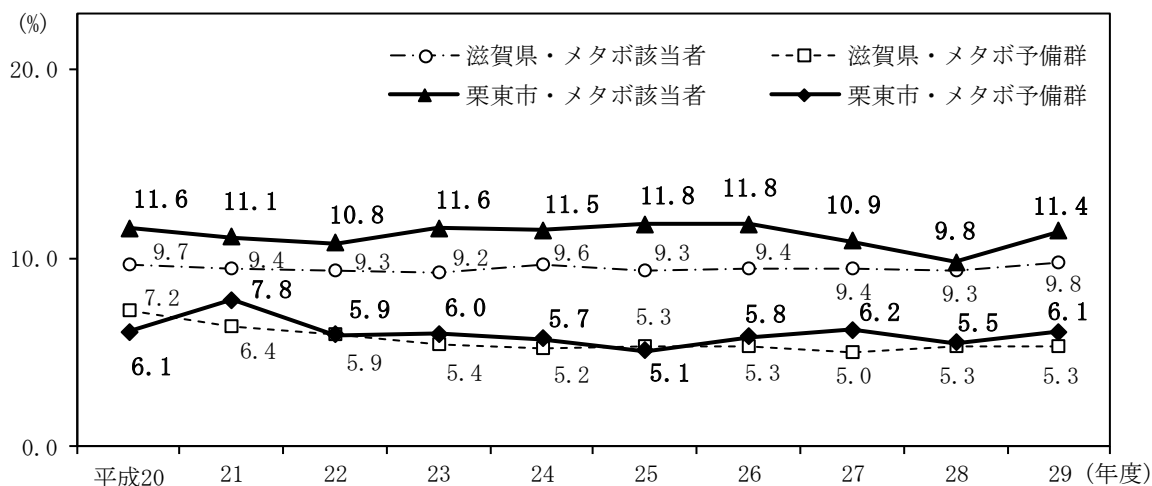
性別にみると、男性の該当者は滋賀県よりも高い傾向にありましたが、ほぼ同率となってきました。女性は該当者、予備群ともに滋賀県よりも高くなっています（図表1-8）。

図表1-8 メタボリックシンドローム該当者・予備群の率の推移（性別、県との比較）

#### ①男性



#### ②女性



資料：法定報告

図表1-9 メタボリックシンドローム該当者・予備群の性・年齢別割合

区 分		該当者		予備群	
		男性	女性	男性	女性
平成 28 年度	40歳代	17.3	1.9	22.1	5.7
	50歳代	21.6	7.5	21.6	6.0
	60歳代	28.1	9.1	19.6	5.0
	70～74歳	31.8	12.8	15.7	5.9
平成 29 年度	40歳代	21.1	4.6	14.0	5.6
	50歳代	26.4	6.3	18.7	6.3
	60歳代	32.5	10.7	16.3	5.1
	70～74歳	29.3	14.5	18.0	7.4

資料：国保データベースシステム 厚生労働省様式5-3

性・年齢別にみると、男性は該当者の割合が60歳代、70～74歳で30%前後と高くなっています。女性は年齢が上がるにつれて割合が高くなる傾向にあります(図表1-9)。

薬剤服用者は全国を上回る割合で推移していましたが、平成29年度は、糖尿病の治療にかかる薬剤を服用している人の割合が全国、滋賀県を下回り、高血圧および脂質異常は滋賀県を下回りました(図表1-10)。

特定保健指導における、積極的支援の対象者の割合は高くなる傾向にあり、平成29年度は2.5%となっており、保健指導終了者は20%台となっています。また、動機付け支援の対象者の割合は全国、滋賀県よりも高く、保健指導終了者は約40%となっています。全体では、特定保健指導対象者の割合は12.4%と全国、滋賀県よりも高く、保健指導終了者の割合も高くなっています(図表1-10)。

なお、特定保健指導による特定保健指導対象者の減少率は、平成29年度は31.1%で県を大きく上回っており、保健指導の効果がうかがわれます(図表1-10)。

(注) メタボリックシンドロームは、内臓脂肪型肥満に加えて、高血糖、高血圧、脂質異常のうちいずれか2つ以上をあわせもった状態をいいます。内臓脂肪が過剰にたまっていると、糖尿病や高血圧症、脂質異常症といった生活習慣病を併発しやすくなります。また、「血糖値がちょっと高め」「血圧がちょっと高め」といった、まだ病気とは診断されない予備群でも、併発することで、動脈硬化が急速に進行します。

図表 1-10 特定健康診査・特定保健指導の実施状況

単位：％

区 分		栗東市	滋賀県	全 国	
特定健康診査受診者・率		平成26年	36.4	38.2	35.4
		平成27年	37.0	38.2	36.3
		平成28年	37.4	38.0	36.6
		平成29年	37.3	38.8	37.2
メタボリック シンドローム (内臓脂肪症候 群)	該当者	平成26年	18.2	16.9	16.6
		平成27年	18.1	17.2	16.9
		平成28年	17.4	17.2	17.4
		平成29年	19.0	18.2	18.0
	予備群	平成26年	10.6	10.4	10.6
		平成27年	10.2	10.0	10.6
		平成28年	10.7	10.5	10.6
		平成29年	10.7	10.4	10.8
薬剤服用者	高血圧	平成26年	35.6	34.6	33.9
		平成27年	35.1	34.8	34.0
		平成28年	34.9	35.1	34.4
		平成29年	34.7	35.2	34.6
	脂質異常	平成26年	27.1	26.2	23.2
		平成27年	26.7	26.7	23.7
		平成28年	27.5	27.5	24.4
		平成29年	27.2	27.9	24.8
	糖尿病	平成26年	7.4	7.1	7.1
		平成27年	6.8	7.3	7.4
		平成28年	7.1	7.3	7.5
		平成29年	7.2	7.5	7.9
特定保健指導 (積極的支援)	対象者	平成26年	2.0	2.4	3.0
		平成27年	2.1	2.2	2.9
		平成28年	2.3	2.1	2.8
		平成29年	2.5	2.1	2.7
	終了者	平成26年	10.2	20.0	15.6
		平成27年	15.9	22.9	15.8
		平成28年	22.7	25.8	16.7
		平成29年	20.8	24.5	17.0
特定保健指導 (動機付け支 援)	対象者	平成26年	9.9	8.3	8.6
		平成27年	9.9	8.3	8.6
		平成28年	9.1	8.2	8.7
		平成29年	9.9	8.6	8.9
	終了者	平成26年	20.3	31.2	27.4
		平成27年	17.6	32.9	28.3
		平成28年	22.9	34.0	29.4
		平成29年	38.9	37.3	30.0
特定保健指導	対象者	平成26年	11.9	10.7	11.6
		平成27年	12.0	10.5	11.5
		平成28年	11.3	10.3	11.5
		平成29年	12.4	10.7	11.6
	終了者	平成26年	18.6	28.7	24.4
		平成27年	17.3	30.8	25.1
		平成28年	22.9	32.4	26.3
		平成29年	35.2	34.7	26.9
特定保健指導による特定保健 指導対象者の減少		平成26年	18.6	24.0	24.0
		平成27年	33.3	22.9	23.3
		平成28年	27.0	24.2	22.3
		平成29年	31.1	22.7	-

資料：平成30年度健康管理施策立案のための基礎資料集



平成29年度の栗東市特定健康診査の結果からBMIをみると、45～49歳男性の肥満が54.0%と高くなっています（図表1-11）。

図表1-11 特定健診受診者の体型 単位：Nは人、他は%

区分	N	やせ	普通	肥満
男性 39～44歳	65	4.6	60.0	35.4
45～49歳	63	1.6	44.4	54.0
50～54歳	50	6.0	54.0	40.0
55～59歳	48	0.0	62.5	37.5
60～64歳	106	4.7	59.4	35.8
65～69歳	443	4.5	71.3	24.2
70～74歳	535	4.3	67.7	28.0
合計	1,310	4.2	66.0	29.8
女性 39～44歳	59	13.6	69.5	16.9
45～49歳	65	10.8	63.1	26.2
50～54歳	73	13.7	65.8	20.5
55～59歳	89	11.2	66.3	22.5
60～64歳	210	11.4	70.5	18.1
65～69歳	652	9.7	71.0	19.3
70～74歳	659	8.2	68.3	23.5
合計	1,807	9.7	69.2	21.1

資料：平成29年 健康かるて特定健診受診者

## (2) 子どもの体型

平成28年度における小中学生の体型をみると、男子は学年が上がるにつれて肥満が高くなる傾向にあり、中学2年生で肥満傾向が8.1%と最も高くなっています。やせ傾向は小学5年生が4.5%と最も高くなっています。

女子は中学3年生で肥満傾向が9.6%と最も高く、やせは中学1年生が4.1%と最も高くなっています（図表1-12）。

図表1-12 子どもの体型（平成28年度）

単位：%

区 分	やせ傾向			普通 -20%～ 20%未	肥満傾向				
	高度	やせ	軽度 20%～ 30%未		中等度 30%～ 50%未	高度 50%以上			
	-30%以下	-30%超～ -20%未							
男子	小学1年生	0.3	0.3	0.0	98.4	1.3	0.7	0.3	0.3
	小学2年生	1.4	0.0	1.4	94.3	4.2	1.9	1.5	0.8
	小学3年生	0.0	0.0	0.0	95.4	4.6	2.1	2.3	0.2
	小学4年生	0.2	0.0	0.2	94.0	5.7	3.1	2.4	0.2
	小学5年生	4.5	0.0	4.5	90.8	4.7	2.3	2.4	0.0
	小学6年生	3.8	0.0	3.8	89.6	6.6	2.2	4.0	0.4
	中学1年生	1.1	0.0	1.1	93.7	5.2	2.7	2.1	0.4
	中学2年生	1.6	0.0	1.6	90.3	8.1	2.9	4.0	1.2
	中学3年生	1.9	0.0	1.9	91.5	6.6	2.8	2.9	0.9
女子	小学1年生	1.0	0.0	1.0	96.7	2.3	0.9	1.4	0.0
	小学2年生	2.0	0.0	2.0	94.0	4.0	2.5	0.9	0.6
	小学3年生	0.6	0.0	0.6	95.1	4.3	2.7	1.6	0.0
	小学4年生	1.2	0.0	1.2	94.3	4.5	2.5	1.4	0.6
	小学5年生	0.7	0.0	0.7	91.8	7.5	4.5	2.2	0.8
	小学6年生	0.5	0.0	0.5	93.2	6.3	2.9	2.5	0.9
	中学1年生	4.1	0.0	4.1	92.0	3.9	2.2	1.4	0.3
	中学2年生	2.9	0.0	2.9	92.3	4.7	4.0	0.5	0.2
	中学3年生	2.7	0.0	2.7	87.7	9.6	5.7	2.6	1.3

資料：栗東市保健安全部会研究集録

## (3) 栄養摂取の状況

## ① カルシウムの摂取量

日本人の食事摂取基準（2015年版）において、カルシウムの1日の推奨量は、男性は15～29歳が800mg、30～49歳が650mg、50～59歳が700mg、女性は15～69歳が650mgとされています。本市の摂取量はいずれの年代も推奨量を大きく下回っています。乳類、豆類などのカルシウムに富む食品をバランスよくとっていく必要があります。

図表1-13 カルシウムの1日の摂取量

単位：mg/日

区 分	男 性			女 性		
	推定平均必要量	推奨量	栗東市摂取量	推定平均必要量	推奨量	栗東市摂取量
15～17歳	650	800	596	550	650	357
18～29歳	650	800	592	550	650	361
30～49歳	550	650	510	550	650	473
50～69歳	600	700	617	550	650	536

資料：推定平均必要量、推奨量は「日本人の食事摂取基準（2015年版）」、摂取量は「平成27年度『滋賀の健康・栄養マップ調査』食物摂取状況調査」

## &lt;参考&gt;栗東市のカルシウムの1日の摂取量（平成21年度）

単位：mg/日

区 分	男 性	女 性
15～17歳	525	224
18～29歳	383	400
30～49歳	466	369
50～69歳	491	499

資料：平成21年度『滋賀の健康・栄養マップ調査』食物摂取状況調査

図表1-14 カルシウムの1日の摂取量（全国、滋賀県との比較）

単位：mg/日

区 分	男 性			女 性		
	栗東市	滋賀県	全 国	栗東市	滋賀県	全 国
7～14歳	426	628	689	324	582	620
15～19歳	618	478	578	418	424	434
20～29歳	578	418	473	331	407	427
30～39歳	558	440	443	453	425	430
40～49歳	467	420	459	494	420	454
50～59歳	469	469	493	469	467	499
60～69歳	667	560	550	563	566	568
70歳以上	588	582	570	538	511	546

資料：栗東市および滋賀県は「平成27年度『滋賀の健康・栄養マップ調査』食物摂取状況調査」、全国は「平成27年国民健康・栄養調査報告」

## ② 食塩の摂取量

平成27年の「滋賀の健康・栄養マップ調査」によると、本市の食塩の摂取量は20歳以上の平均では1日当たり男性が10.9g、女性が9.8gとなっています。男性は概ね全国と同じ摂取量ですが、女性は全国、滋賀県を上回っています。

平成21年の調査と比べると、20歳以上の男性は0.7g少なくなり、女性は0.1g多くなっています。

図表 1-15 食塩の1日の摂取量（全国、滋賀県との比較）

単位：g／日

区 分	男 性			女 性		
	栗東市	滋賀県	全 国	栗東市	滋賀県	全 国
20～29歳	8.5	9.7	10.8	8.2	8.4	8.8
30～39歳	12.0	10.1	10.8	8.9	8.4	8.5
40～49歳	10.5	9.9	10.7	10.1	8.3	8.7
50～59歳	11.7	10.6	11.3	10.2	9.2	9.2
60～69歳	11.4	11.6	11.3	10.2	10.1	9.9
70歳以上	10.2	11.0	10.8	10.1	9.4	9.3
20歳以上	10.9	10.7	11.0	9.8	9.2	9.2
平成21年 20歳以上	11.6	11.3	11.4	9.7	10.0	9.8

(注) 男女全体の平均は、栗東10.2g、滋賀県9.6g、全国9.7g。20歳以上男女の平均は、栗東10.3g、滋賀県9.9g、全国10.0g。

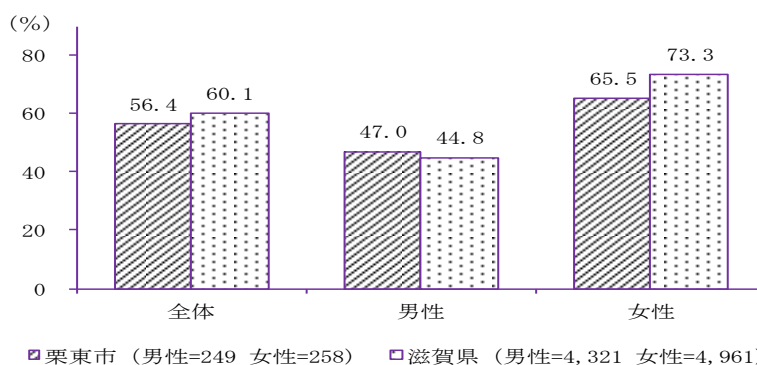
資料：栗東市および滋賀県は「平成27年度『滋賀の健康・栄養マップ調査』食物摂取状況調査」、全国は「平成27年国民健康・栄養調査報告」

## (4) 食育への関心

滋賀の健康・栄養マップ調査で食育に関心を持っている人の割合をみると、本市は全体では56.4%となっており、滋賀県よりやや低くなっています。性別にみると、男性に比べて女性の関心が高くなっています。

図表 1-16 食育に関心を持っている人の割合

(「関心がある」「どちらかといえば関心がある」の合計)



## (5) 医療費の状況

平成29年5月診療分から1か月1人あたりの医療費をみると、国民健康保険は21,058円となっており、滋賀県よりも1,503円低くなっています。傷病別にみると、新生物が最も高く、次いで消化器系、腎尿路性生殖器系、高血圧の順となっています。滋賀県と比べると、本市は腎尿路性生殖器系等が高く、新生物、呼吸器系等が低くなっています。

後期高齢者医療は1か月1人あたり63,799円となっており、滋賀県より4,332円低くなっています。傷病別にみると、新生物が最も高く、次いで消化器系、腎尿路性生殖器系、損傷・中毒、虚血性心疾患の順となっています。滋賀県と比べると、本市は虚血性心疾患、新生物、腎尿路性生殖器系等が高く、呼吸器系、高血圧等が低くなっています。

図表1-17 傷病別国保医療費（1か月1人あたり）

単位：円

市町村国保			後期高齢者		
傷病名	栗東市	滋賀県	傷病名	栗東市	滋賀県
全疾患	21,058	22,561	全疾患	63,799	59,467
新生物	3,496	4,038	新生物	8,474	6,609
糖尿病	814	914	糖尿病	2,177	2,359
高血圧	1,112	1,332	高血圧	3,312	4,170
虚血性心疾患	400	567	虚血性心疾患	4,685	2,157
脳内出血	269	285	脳内出血	791	778
脳梗塞	580	400	脳梗塞	3,939	2,992
呼吸器系	607	874	呼吸器系	2,297	3,973
消化器系	3,001	3,050	消化器系	6,302	5,400
腎尿路性生殖器系	1,756	1,482	腎尿路性生殖器系	6,241	4,470
損傷・中毒	993	971	損傷・中毒	5,098	5,244

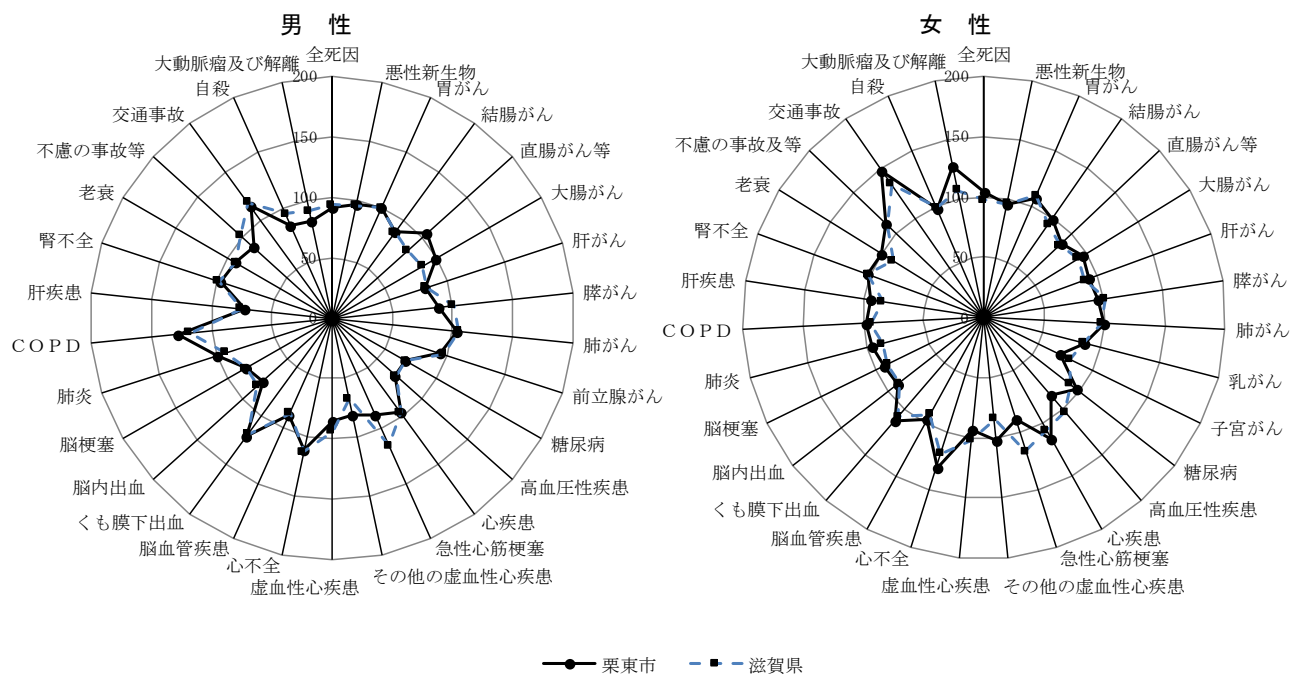
(注) 平成29年5月集計

資料：滋賀県国民健康保険団体連合会基礎資料集

## (6) 標準化死亡比

図表1-18の標準化死亡比（ベイズ推定値EBSMR、2007～2016年）でみると、本市の男性は、COPD、くも膜下出血、交通事故、心不全が高く、糖尿病、高血圧性疾患、肝疾患、脳内出血、その他の虚血性心疾患、虚血性心疾患などが低くなっています。女性は、交通事故、心不全、大動脈瘤及び解離、心疾患、くも膜下出血などが高く、子宮がん、高血圧性疾患、乳がん、直腸がん等、急性心筋梗塞などが低くなっています。

図表 1-18 標準化死亡比 (2007~2016年)



(注) 標準化死亡比は、年齢構成の違いの影響を除いて死亡状況を表すものであり、100より大きい場合は、全国の平均より死亡率が高いと判断され、100より小さい場合は死亡率が低いと判断されます。

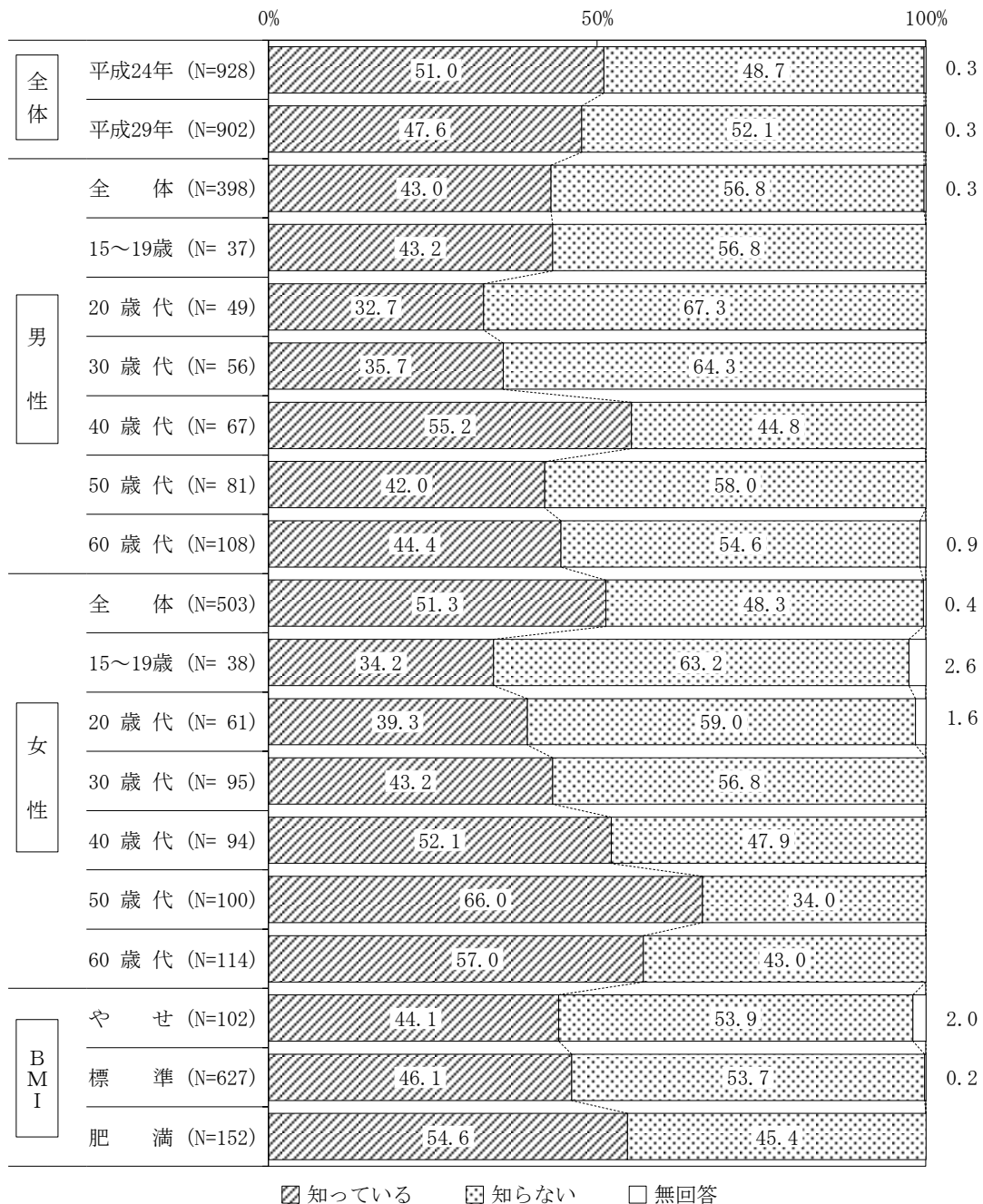
資料：「滋賀県の死因統計解析」滋賀県衛生科学センター

### 3 アンケート結果から見る食生活等の状況 (平成29年度生活と健康に関するアンケート調査)

#### (1) 適切な食事内容や量

「自分の健康や体重を管理するための適切な食事内容や量を知っていますか」という設問に対しては、「知っている」が47.6%、「知らない」が52.1%となっています。平成24年の調査に比べると、「知っている」は3.4ポイント低下しています。性別にみると、「知っている」は女性が男性より8.3ポイント高くなっています。男性は、40歳代が55.2%と最も高く、20歳代、30歳代は30%台にとどまっています。女性は10歳代が34.2%と最も低く、年齢が上がるにつれて高くなり、50歳代が66.0%と最も高くなっています。

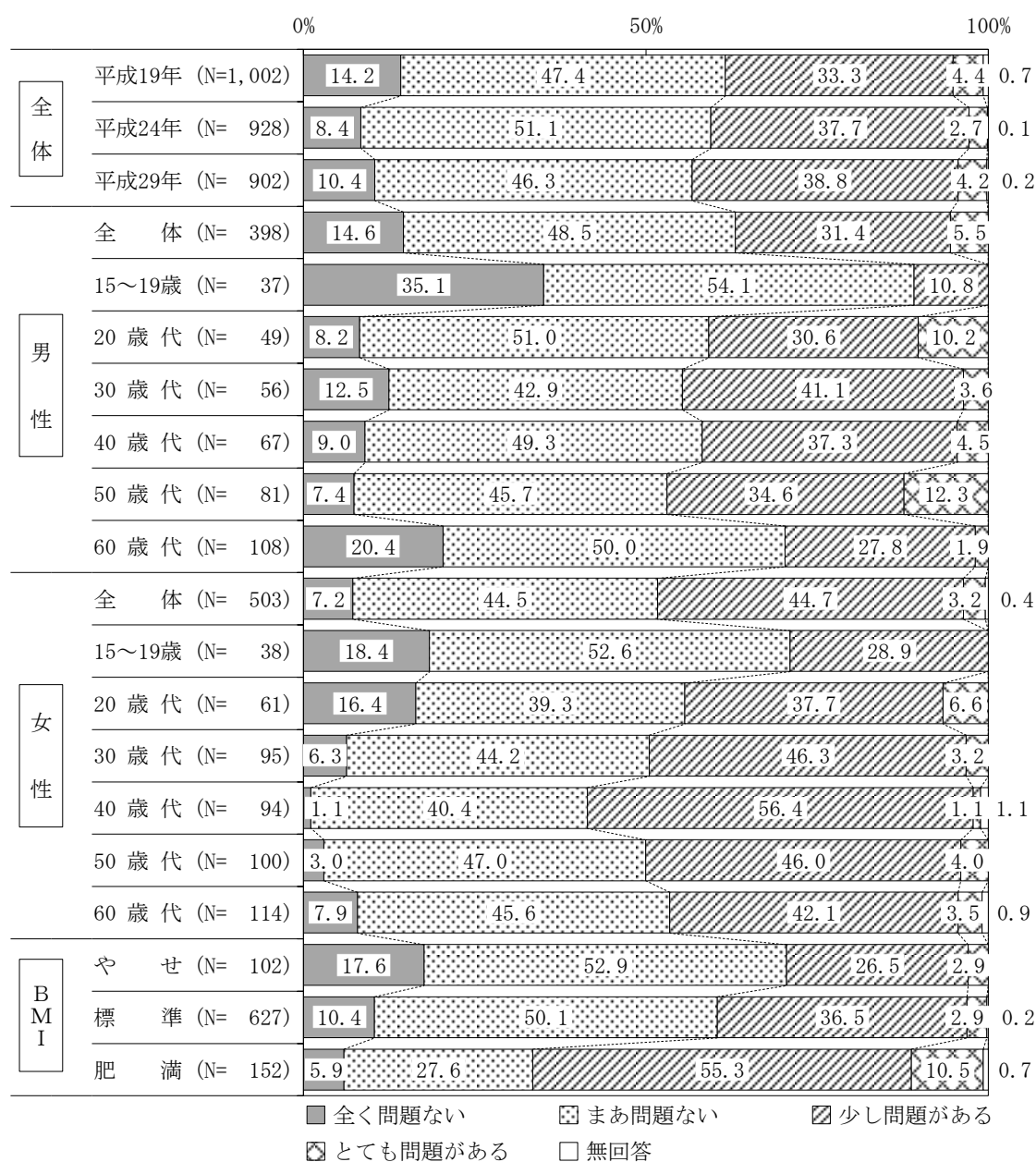
図表1-19 適切な食事内容や量を知っているか



## (2) 自分の食生活の評価

今の自分の食事の量や内容など食生活全般についてどのように感じているかをたずねたところ、「まあ問題ない」が46.3%を占めています。これに「全く問題ない」を加えた<問題ない>は56.7%、「少し問題がある」「とても問題がある」を合計した<問題がある>は43.0%です。これまでの調査と比べると、<問題ない>が低下し、<問題がある>がやや高くなっています。<問題がある>は男性より女性が11.0ポイント高く、40歳代の女性は57.5%と最も高くなっています。また、BMI別の「肥満」では65.8%と高くなっています。

図表1-20 自分の食生活の評価





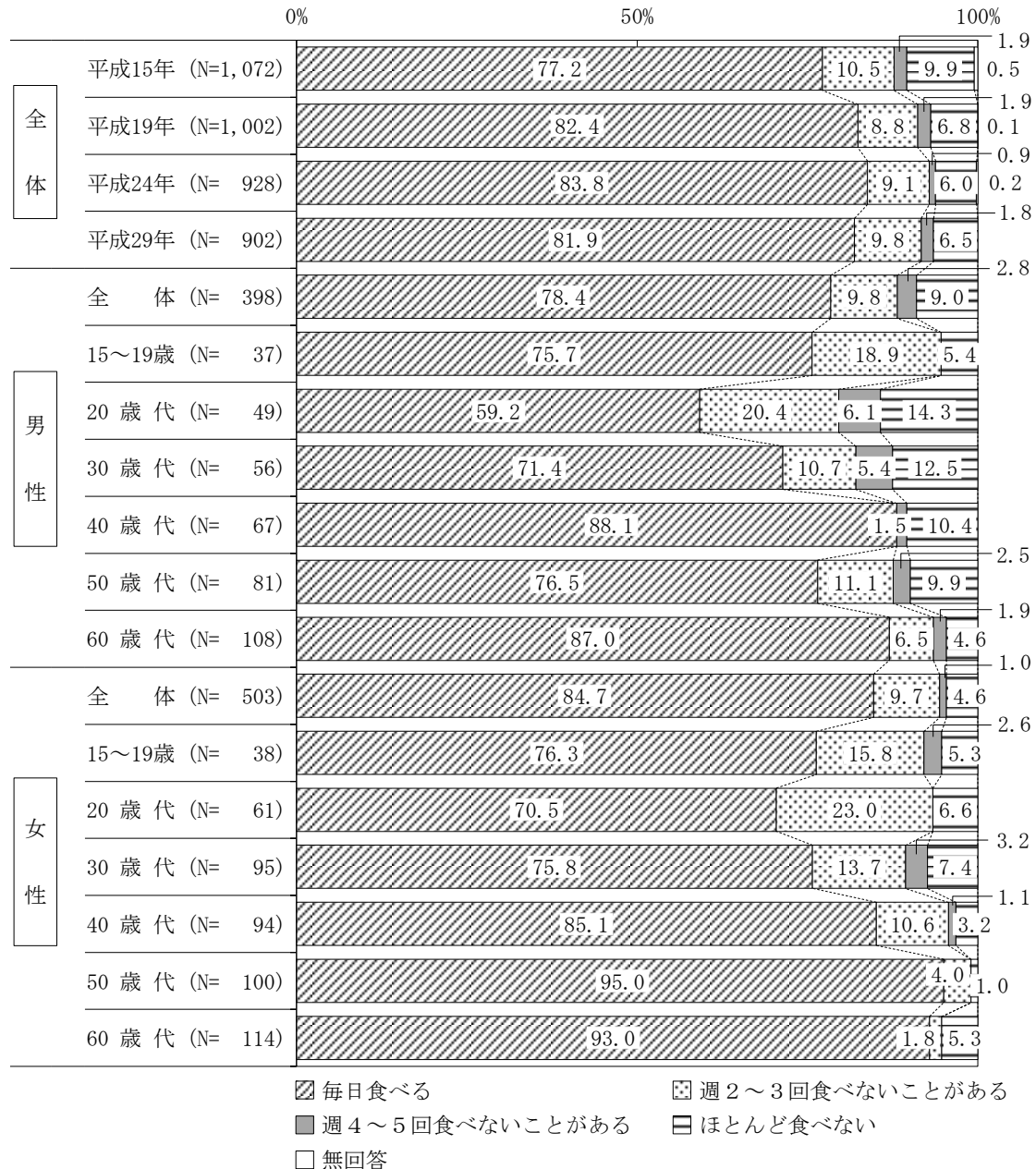
(3) 朝食

普段の朝食については、81.9%が「毎日食べる」と回答しています。「週2～3回食べないことがある」は9.8%、「週4～5回食べないことがある」は1.8%、「ほとんど食べない」は6.5%となっており、合計した＜朝食を摂取しない＞は18.1%となります。

＜朝食を摂取しない＞は、平成15年（22.3%）、平成19年（17.5%）、平成24年（16.0%）と低下していましたが、平成29年は平成24年調査を2.1ポイント上回りました。性別で見ると、女性（15.3%）より男性（21.6%）が6.3ポイント高くなっています。

年齢別にみると、＜朝食を摂取しない＞が高いのは、男女とも20歳代であり、特に男性は40%を上回っています。30歳代男性も28.6%と高くなっています。

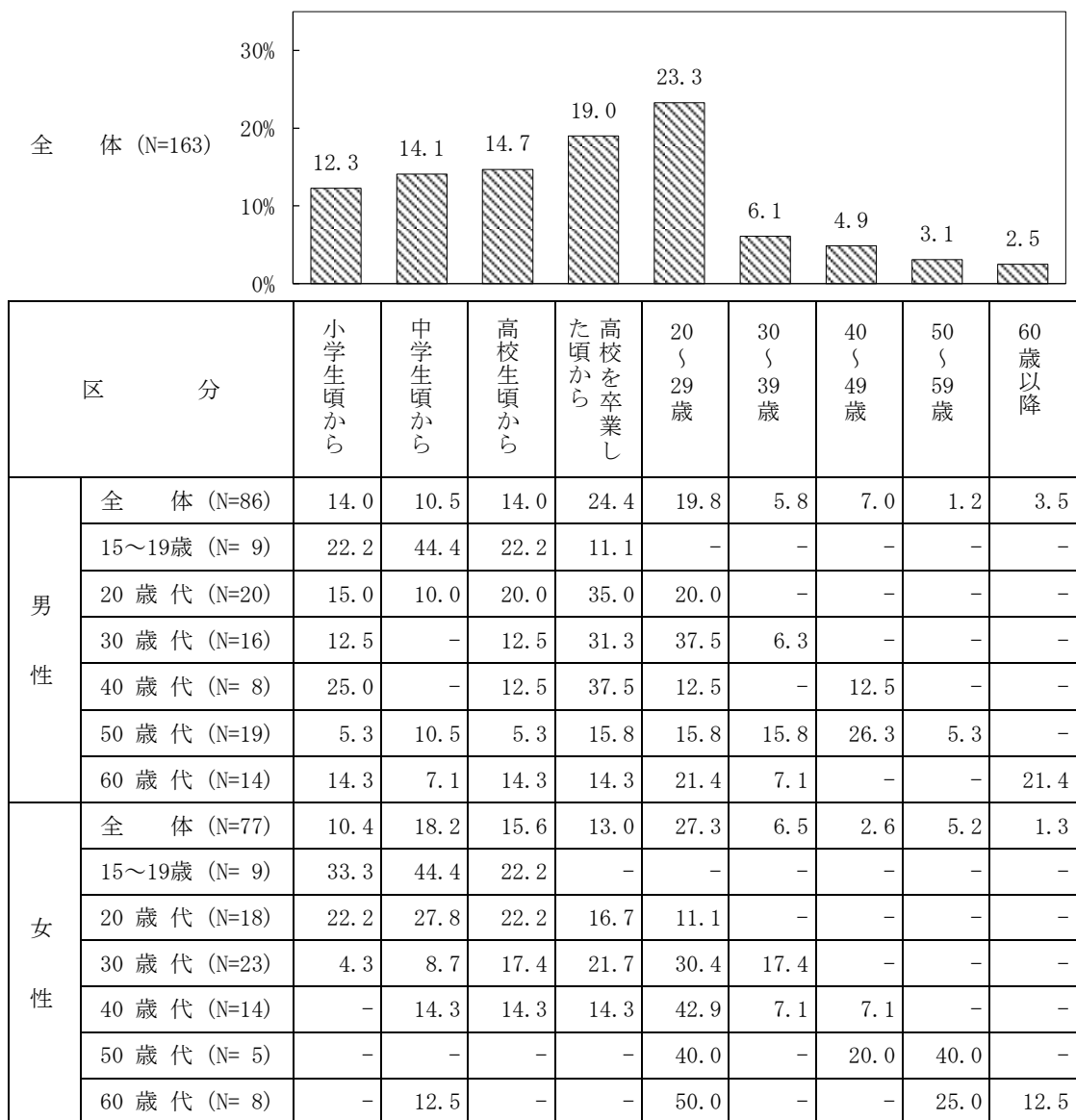
図表1-21 朝食



#### (4) 朝食を食べなくなった時期

<朝食を摂取しない>と答えた人に、いつ頃から朝食を摂取しなくなったかをたずねたところ、「20～29歳」が最も高く、次いで「高校を卒業した頃から」「高校生頃から」の順となっています。また、<朝食を摂取しない>人の26.4%が中学生までに欠食するようになっています。

図表 1-22 朝食を摂取しなくなった時期



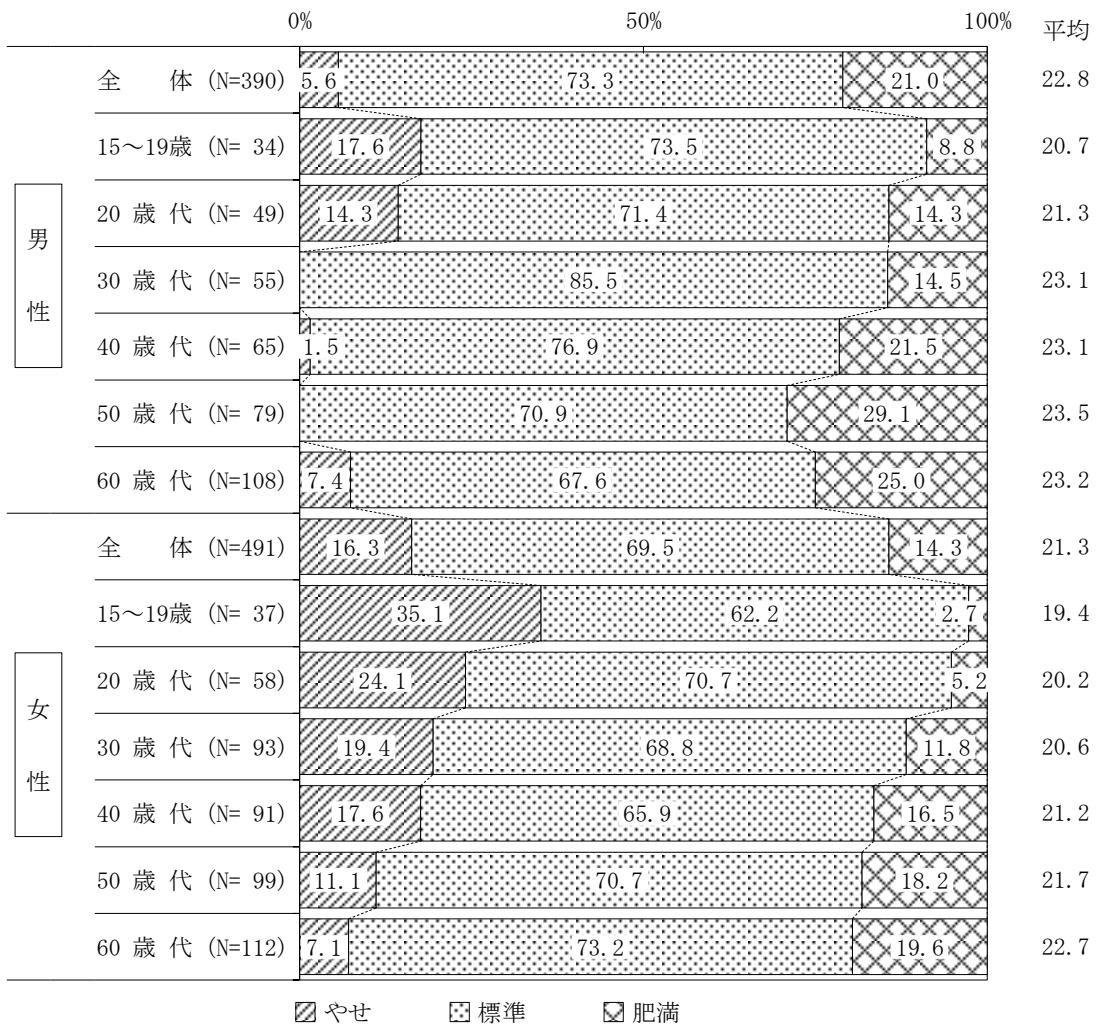
(5) BMI

BMIは世界共通の肥満度の指標で、 $BMI = \text{体重 (kg)} \div \text{身長 (m)} \div \text{身長 (m)}$ の算式で求めます。BMIは22が標準で、18.5未満が「やせ」、25.0以上が「肥満」とされます。

25.0以上の「肥満」の人は、メタボリックシンドロームになる可能性が高いと考えられます。「肥満」の割合は女性に比べて男性が高くなっています。男性は年齢が上がるにつれて「肥満」の割合が高くなる傾向にあり、10代後半から20歳代にかけて5.5ポイント、30歳代から40歳代にかけて7.0ポイント、40歳代から50歳代にかけて7.6ポイント高くなっていきます。女性は20歳代から30歳代にかけて6.6ポイント上昇していますが、その後は緩やかな上昇となっています。

一方、「やせ」は男性に比べて女性が高く、特に15～19歳の女性は35.1%と高くなっています。その後は年齢とともに「やせ」は低下していきます。

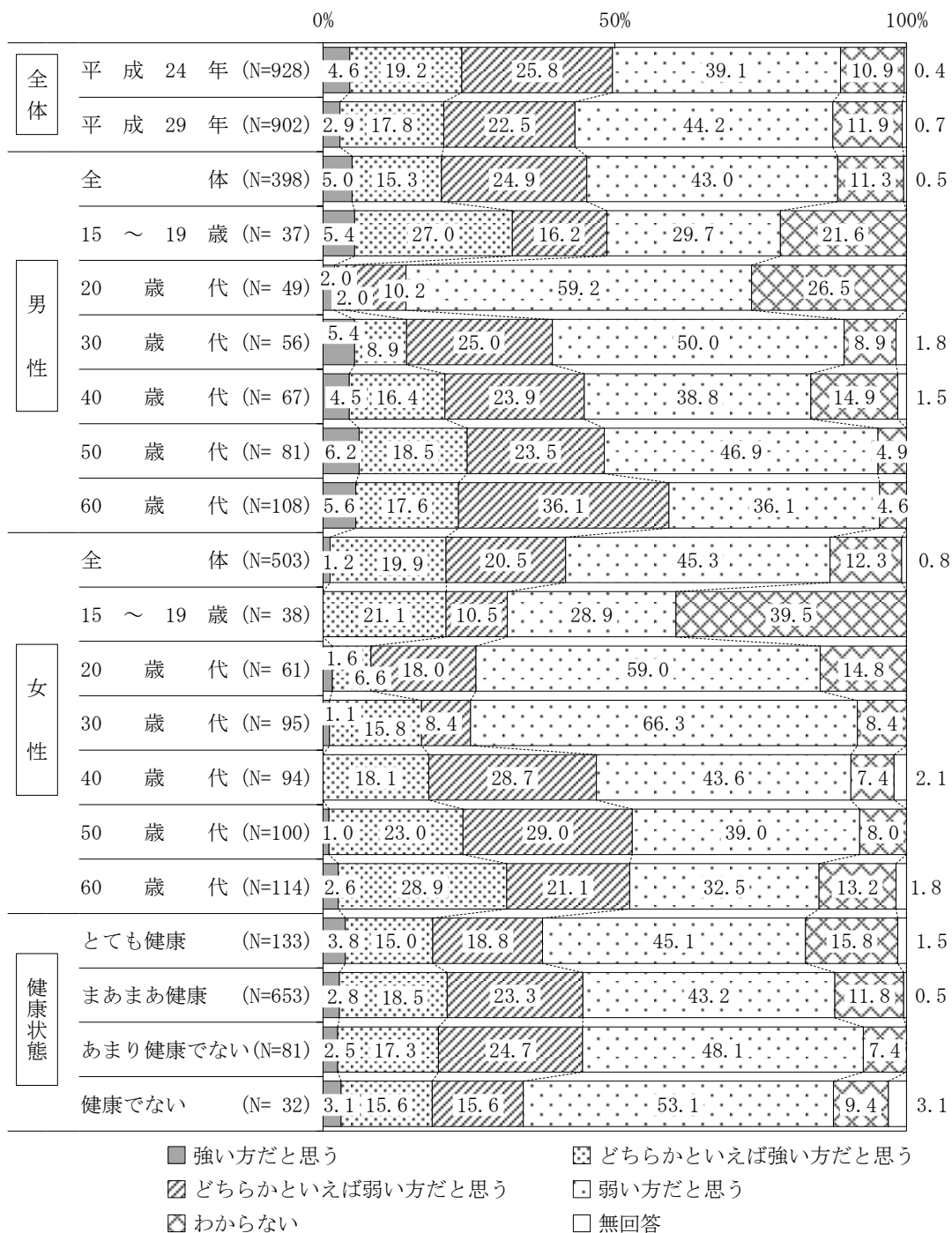
図表1-23 肥満の割合 (BMI 25以上)



(6) 地域の人とのつながり

地域の人たちとのつながりについては、「弱い方だと思う」が44.2%と最も高くなっています。これに「どちらかといえば弱い方だと思う」(22.5%)を加えた<地域のつながりが弱い方>は66.7%となります。「強い方だと思う」(2.9%)と「どちらかといえば強い方だと思う」(17.8%)を合計した<地域のつながりが強い方>は20.7%となっており、<地域のつながりが弱い方>を46.0ポイント下回っています。平成24年調査に比べると、地域のつながりは弱くなっているといえます。

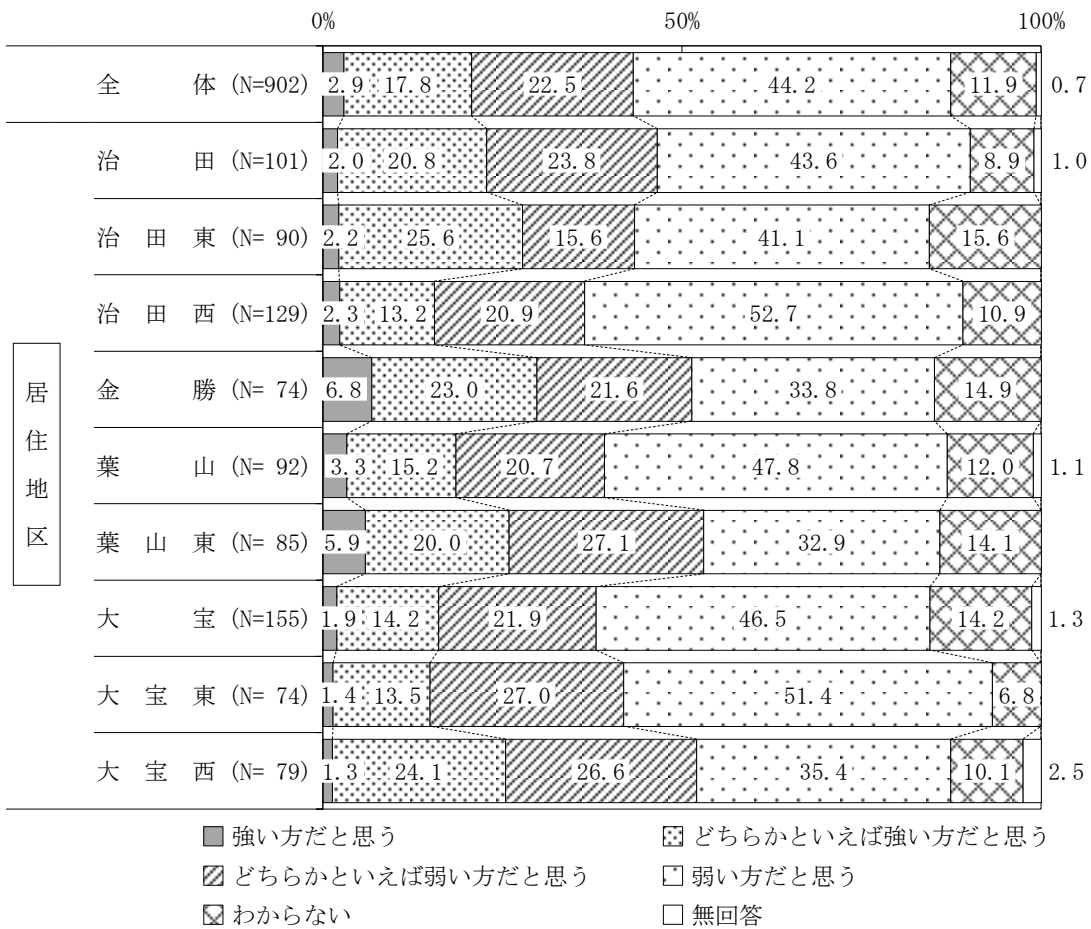
図表1-24 地域の人とのつながり



性・年齢別にみると、男性は＜地域のつながりが強い方＞は10歳代が32.4%と最も高く、20歳代が4.0%と最も低くなっています。その後は30歳代が10%台、40歳代以上は20%台となっています。女性は20歳代が8.2%と最も低く、その後は年齢が上がるにつれて高くなり、60歳代は30%を上回っています（図表1-24）。

居住地区別にみると、＜地域のつながりが強い方＞は金勝が29.8%で最も高く、次いで治田東（27.8%）、葉山東（25.9%）、大宝西（25.4%）の順となっています（図表1-25）。

図表1-25 地域の人とのつながり（居住地区別）



## 4 農家等の状況

### (1) 農家戸数

平成27年の農家戸数は、948戸となっており、平成22年から163戸減少しています。販売農家は130戸、自給的農家は33戸減少しています。

図表 1-26 農家戸数の専業別推移

区 分		総農家数	販売農家	専業別			自給的農家
				専業	第一種兼業	第二種兼業	
平成17年	農家数(戸)	1,260	829	96	34	699	431
	構成比(%)	100.0	65.8	7.6	2.7	55.5	34.2
平成22年	農家数(戸)	1,111	715	77	24	614	396
	構成比(%)	100.0	64.4	6.9	2.2	55.3	35.6
平成27年	農家数(戸)	948	585	115	28	442	363
	構成比(%)	100.0	61.7	12.1	3.0	46.6	38.3

(注) 図表内の用語は以下のとおり

専業農家 世帯員のなかに兼業従事者(調査期日前1年間に30日以上雇用兼業に従事した者または調査期日前1年間に販売金額が15万円以上ある自営兼業に従事した者)が1人もいない農家をいう。

兼業農家 世帯員のなかに兼業従事者が1人以上いる農家をいう。

第1種兼業農家 農業所得を主とする兼業農家をいう。

第2種兼業農家 農業所得を従とする兼業農家をいう。

自給的農家 経営耕地面積が30a未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家をいう。

資料:「農林業センサス」

### (2) 経営耕地面積

平成27年の本市の経営耕地面積は54,477aとなっており、平成22年に比べると4,607a減少しています。県内の市では湖南省に次いで狭くなっています。経営耕地面積のうち、田の面積は51,533aで、全体の94.6%を占めています。

耕作放棄地は692aとなっており、平成22年に比べると39a増加しています。

図表 1-27 経営耕地面積

区 分		経営耕地面積				耕作放棄地
		田	畑	樹園地		
平成22年	面積(a)	59,084	56,350	2,306	428	653
	構成比(%)	100.0	95.4	3.9	0.7	
平成27年	面積(a)	54,477	51,533	2,458	486	692
	構成比(%)	100.0	94.6	4.5	0.9	

(注) 経営耕地面積 = 所有地(田、畑、樹園地) - 貸付耕地 - 耕作放棄地 + 借入耕地

資料:「農林業センサス」

## 5 食料自給率

滋賀県の食料自給率は、カロリーベースではこれまで50%前後で推移しています。全国に比べると10ポイント程度高くなっています。

生産額ベースでは、平成24年度に30%台から20%台に落ち込み、その後も20%台で推移しています。全国に比べると40ポイント程度低くなっています。

図表1-28 都道府県別食料自給率の推移（カロリーベース）

単位：%

区 分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度 (概算値)
全 国	40	39	40	41	40	39	39	39	39	39	39	38
富 山	72	77	73	76	77	78	77	74	76	78	83	79
石 川	47	49	48	49	49	50	50	48	49	48	51	49
福 井	63	66	64	66	64	67	66	64	65	64	68	68
山 梨	20	20	19	20	20	20	20	20	19	19	19	20
長 野	53	53	52	53	52	53	52	53	53	52	54	53
岐 阜	25	25	25	26	24	26	26	26	26	26	25	24
静 岡	18	18	18	17	17	17	18	17	17	17	17	17
愛 知	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	12	12
三 重	42	44	42	43	41	44	42	43	43	43	42	42
滋 賀	52	52	50	50	50	51	49	50	50	50	51	51
京 都	12	13	13	13	12	13	12	12	13	12	13	12
大 阪	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1
兵 庫	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
奈 良	14	15	15	15	15	15	15	14	15	14	15	15
和歌山	30	29	31	31	31	29	30	29	30	30	30	29

図表1-29 都道府県別食料自給率の推移（生産額ベース）

単位：%

区 分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度 (概算値)
全 国	69	68	66	65	70	69	67	64	64	59	58	61
富 山	71	71	62	64	69	66	64	55	54	50	50	52
石 川	61	63	58	59	60	58	59	58	53	51	52	55
福 井	61	63	56	56	58	57	58	85	82	79	78	85
山 梨	92	92	93	84	89	94	86	123	118	118	122	123
長 野	120	122	121	120	123	130	120	50	47	45	48	49
岐 阜	48	49	46	48	50	49	48	56	52	52	52	52
静 岡	55	54	53	52	55	54	54	35	33	32	31	31
愛 知	37	35	34	35	37	35	34	70	67	65	65	65
三 重	72	71	69	66	70	69	68	40	38	34	34	36
滋 賀	42	41	37	37	39	36	36	23	21	21	24	22
京 都	23	23	22	22	23	23	23	5	5	5	5	5
大 阪	6	6	5	5	5	5	6	37	34	35	34	36
兵 庫	38	37	36	34	37	38	35	28	25	22	22	24
奈 良	27	27	26	25	26	26	26	112	99	96	102	115
和歌山	109	106	107	102	102	106	113	64	64	59	58	61

資料：農林水産省試算